

# 輝く瞳 学ぶ喜び



要田小学校だより  
第 卒業2号  
2016.3.23.WED

TEL:62-2433 FAX:62-3439

## 教育目標

- ・進んで学ぶ子
- ・思いやりのある子
- ・がんばる子



## 平成27年度 卒業証書授与式 式辞！



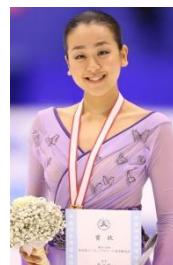
教室を吹き抜ける風に、校庭の木々の芽吹きに、春の訪れを感じる今日の佳き日。ご来賓各位のご臨席を賜り、保護者の皆様と要田小学校の児童、教職員が一堂に会し、チーム要田で作る最後の授業・平成27年度卒業証書授与式を挙行できますこと、この上もない喜びを感じます。

要田小学校を旅立つ8名の皆さん、卒業おめでとうございます。ただ今、一人一人に卒業証書をお渡ししました。担任の内池先生が心を込めて呼ぶ名前に「はい」と大きな声で返事する声に、参列したご来賓、保護者、在校生、そして先生方が耳を傾け、卒業証書を受け取る姿をじっと見つめて、「おめでとう」「よくがんばったね」「立派な中学生になってください」という眼差しで祝福と激励をしてくださいました。卒業証書には、皆さんの6年間の生活の歴史と努力が充ち満ちています。また、ご家族や先生方の限りない愛情も込められています。大切にしてください。

皆さんは、要田小学校の児童として、お家の方に手を引かれ、初めて校門をくぐった平成22年4月6日の入学式から6年間、心も体も立派に成長し、本校を巣立っていきます。特に最上級生としての本年度は、「関心・感動・感謝」の3かん王を目指し、8人は常に「要田の顔」として様々な場面で活躍しました。「チーム要田 努力した その分ゴールに 近づける」をスローガンに頑張った体育館での運動会、初めてのカヌー体験や会津の歴史を学んだ宿泊学習、本気で闘った陸上大会や水泳大会、感謝の心を届けた学習発表会、劇団ポプラの皆さんと演じた「オズの魔法使い」、和楽器の音色に感動した邦楽教室など、様々な活動を通して、多くの人に支えられて成り立つ日々の学校生活への感謝の気持ち、そして、今自分に出来ることに全力を尽くすことの大切さ、チーム要田で支え合い、力を出し合って頑張っていくことのすばらしさを学ぶことができました。

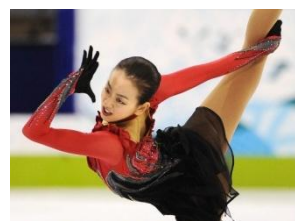
卒業にあたり、最後のメッセージを送ります。

昨年五月、現役続行の意思を明言し、11月に行われた2015グランプリシリーズ中国杯で優勝、12月の全日本フィギュアスケート選手権大会で第3位と活躍する、小中学生が一番好きなスポーツ選手、浅田真央選手についてお話しします。



19歳で出場した、今から6年前のバンクーバーオリンピックでは、女子史上初の3度のトリプルアクセルを成功させるも銀メダルで悔し涙を流しました。

ソチオリンピックまでの4年間は、一からスケーティングを見直し、ジャンプを矯正、表彰台にすら上がれないつらい時期もありました。でも、自分の夢に向かってやるべきことをしっかりやる浅田選手がいつもいました



そして、浅田真央選手の集大成として臨んだ、2年前に行われたソチオリンピック

ショートプログラムはまさに悪夢でした。3つのジャンプはことごとく失敗し、まさかの16位。メダルは絶望的。でも真央選手は強いアスリートでした。誰もが諦めかけていた中、最後まで挑戦する姿勢を崩しませんでした。



フリーでは、トリプルアクセルを成功せる最高の演技で自己ベストを更新する点数を出しました。



演技を終えると感極まって涙を流します。割れんばかりの歓声に包まれました。

最後まで諦めずに完璧な滑りを見せた真央選手に会場では涙をぬぐって感激する人もいました。先生も感動で涙が流れました。

「わたしが目指してきたのは、昨日のような演技ではなくて、今日のような演技。これが自分なんだと受け止めています。」(真央) ようやく見せた真央スマイル。



「フィギュアスケートは勝った、負けたではないと思うんです。生き様をどう氷の上でみせるか。それがフィギュアではないですか」。4年前に亡くなった真央選手のお母さんの言葉です。浅田真央選手は、まさに「生き様」を私たちにを見せてくれました。勝つために全力を尽くすのは、じつはやさしいのです。負けと決まったあとに、全身全霊を込めるのは誰にでもできることではありません。その強い心に私たちは感動したのだと思います。

真央選手の「生き様」にふれた皆さんへ送る言葉。



## 「道」

自分には自分に与えられた道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めないかけがえのないこの道。広いときもある。せまいときもある。のぼりもあればくだりもある。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。高い志や夢の存在こそが皆さんの行動を促し、その結果として、皆さんの世界を広げ、道が開けるのです。

もちろん、努力してもその努力が報われない時はあります。苦しいことや悲しいことも経験していくことでしょう。しかし、そんな時でも努力することを怠らなければ、必ず道が開け、描いた夢に近づくことができるでしょう。ぜひ、この地球上でただ一人の自分を大切に、可能性に挑戦し続け、頑張っている自分を見つけてください。そして、高い志を抱いて、誠実に、夢に向かって、堂々と胸を張って、自分の選んだ道を進んでいってください。

浅田真央選手のように。



最後はお願いです。東日本大震災。多くの人たちが苦しい立場に立たされました。5年経った今でも10万人の方が県内外で避難生活を強いられ、避難区域にある小中学校の1万2千人の児童生徒が避難先で授業を受けています。福島県が一日も早く元の福島に戻るためには、皆さんの若い力が、エネルギーが不可欠です。多くの方々に支えられていることへの感謝の気持ちを忘れず、未来に向かって挑戦することをお願いいたします。

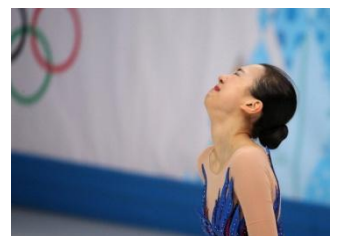
さて、保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。これまで、本校の教育活動に対し多大なるご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。まぶしいくらい大きく成長した子どもたちの姿を前にして、感慨もひとしおのこととお慶び申し上げます。これから中学校へ進み、心の悩みや葛藤もさらに多くなり、心配事は尽きないと思いますが、砂時計のように少しずつ人生の砂を積み上げていくお子様の姿を温かく見守っていってください。そして、砂がこぼれてしまったときこそ、そっと手を差し伸べるような親子関係を大事にし、お子様に寄り添っていただきたいと思っております。

最後になりましたが、ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、本日はありがとうございました。今、こうして卒業生が立派に巣立っていくことができますのも、皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。今後とも、更なるご支援をいただきますようお願いいたします。

さあ、卒業生の皆さん、羽ばたきの時です。胸を張って、堂々と笑顔で飛び立ってください。最後の授業の式辞といたします。



要田小学校長  
大河原 久宗



この道より  
我を生かす道なし  
この道を歩く